

第4回 第5期武蔵野市廃棄物に関する市民会議要録

【日 時】	平成 26 年 7 月 18 日（金）	午後 7 時 00 分～9 時 00 分			
【場 所】	武蔵野クリーンセンター	3 階見学者ホール			
【出席委員】	阿部迪子	石川洋一	岡内歩美	加藤慎次郎	狩野耕一郎
（敬称略）	木村 浩	迫田洋平	田口 誠	竹下 登	中里陽一
	西上原節子	能勢方子	花俣延博	古川浩二	山谷修作
【事務局】	大野課長	齋藤副参事	事務局クリーンセンター所長他		
【欠 席】	なし				
【傍 聴】	なし				
【配布資料】					
資料 1	近隣市とのごみの取り組み比較				
資料 2	武蔵野市のごみ排出の特徴				
資料 3	現行施策の進捗状況				

1 開 会

【委員長】

これから、第4回武蔵野市廃棄物に関する市民会議を開催する。

2 議 題

(1) 前回会議要録の内容確認について

【委員長】

特にご意見等がなければ、ご承認いただくということによろしいだろうか。(一同承認)

(2) 現行基本計画の課題整理について

①近隣市のごみ行政について

《事務局より、近隣市のごみ行政について説明を行った。》

【委員長】

資料1は家庭系、事業系、そしてその2つを合わせた表で、違いはわかるが少し見にくい。3市の観点で、一概に比較できない制度上の違いがある。

②委員意見

【委員長】

次の議題として、7名の委員からご意見をいただく。順次お願いする。

【A委員】

「収集業者からみた武蔵野のごみの特性」というプリントを準備させていただいた。私も主に東京の多摩地域において武蔵野市以外にも狛江市や稲城市、多摩市、町田市、小金井市、福生市、瑞穂町と家庭ごみの収集委託を行っている会社。他地区の収集業務委託を行う中で武蔵野の特性を箇条書きにした。①と②については、車両、道路交通の状況。非常に狭い道路が多い。主に2tのパッカー車を用いて収集を行う関係上、道路が狭かったり交通が激しいと大変ロスになる。空いている広い道路で収集業務を行うのが最も効率が良い。面積が広いから効率が悪く面積が狭いから効率が良いかという逆。③はごみ出しの時間についてで、武蔵野市は朝9時までにごみを出せば良いという決まりだが、他市の多くは8時もしくは8時30分。三鷹市は8時、西東京市は8時30分、区部では杉並区が7時30分。ごみ出しの時間も収集効率に大きな影響がある。冬は15時頃には薄暗くなる。収集業務に当たることのできる時間として朝の30分、1時間は非常に大きい。作業できる時間が短いので車両や人が多くかかる。④は資源ごみ関係で、びん、缶、古紙、古布、有害ごみという5品目を同じ日に出すので、その中で該当品目を探し出すことも効率を悪くしている。⑤はペットボトルやプラスチックで、武蔵野市では排出場所を決めてそこに出すが、これら軽いものだけを収集する日に風が強くと飛ばされて移動することがあるため、違う場所にプラスチックのごみ袋があった際、それを取るかどうか迷う。処分するものだと思って回収して後から必要なものだったという苦情もある。⑥はごみを出す位置で、武蔵野市は敷地内排出という仕組みだが、三鷹市は敷地外、道路の端に出す。武蔵野市はごみが出ているがどうかかわからないため美観は良いが、収集する側とするとごみが見つづらいというデメリットもある。一方、道路に排出する三鷹市は近所の人を見てごみ出しを忘れずにでき、排出時間を超過した場合はごみを後出ししづらくなるのでルールの徹底度合いで言えば良いが、美観はあまり良くない。⑦はごみの全体量についてで、他市と比べた時に可燃ごみや特に古紙は一度に出る量が多いという印象。ただ、家庭以外にも企業から出る事業系ごみの収集経験で言うと、経済活動が活発な景気の良い会社は昔からごみが多く出るため、景気が悪くなりごみが減ってくると、大丈夫かなと心配するような状況もある。どんな業種でもごみが出る方が経済的には活発化している一面もあるので、武蔵野市のごみの減量が進まないのは景気の問題も寄与しているのではないかという気がする。

【委員長】

戸別収集で道路の脇に出す自治体は珍しいのか？

【A委員】

実はそうでもなくて、狛江市や稲城市も道路の端だ。

【B委員】

35 年程前、主人の仕事の関係でニューヨークに約 3 年住んだ。ニューヨークやアメリカというと、無駄なものが多く出るというイメージがあったが、住んでみてイメージが変わった。学校の通知は裏紙を使用したり、教科書も日本のように毎年新品を使用するのではなくて 3～4 年は同じものを使い回す。子どもが使用していたものは 3 年目の教科書だったが、きれいに使われていて線なども引いてなかった。スーパーなどにはレジ袋はなくて袋の中にパンから何から全部入れてしまい、そのまま持って帰るか車まで持って行く。レジ袋という観点は無かったので、日本に帰ってきてからすごく贅沢に感じた。デパートで買い物をして目当ての品物が出てくるまで何枚も何枚も包装がされている。向こうでは、パンを買うとき食パンは包装紙に入っているがフランスパンはパンのままくれて、みんなそれを持って帰る。日本でパンを何種類か買うと、一つの袋に一つのパンを入れてくれるので、全部同じ袋で良いと言ったがそのサイズの袋がないとのことだった。お客様の声にも何回か書いたが結局何も変わらなかった。海外旅行に行くと、ドイツ系の国は分別がすごい。早朝からおばあさんが軍手をして一つ一つ分別してごみを捨てているのを見た。ごみの分別にしても、ノートや紙を無駄にすることなどはうちの子どもたちの時代から変わっていくのではないか。これは武蔵野市だけでなく国の問題だが、日本は資源がないのだし、教科書は毎年新しくしなくても良いのでは、と感じた。

【委員長】

アメリカは地域によってまちまちだが、お住まいになったのはどちらか。

【B 委員】

ニューヨーク。鼻をかむときも向こうはティッシュではなくハンカチ。T シャツなどと一緒に洗うが、だから洗うのだと言われた。

【C 委員】

私は武蔵野クリーンセンターの運営協議会委員で推薦を受けて参加しているので、その視点で問題提起をさせていただきたい。用意した文書は「運転状況及び各種分析結果報告」。これは運営協議会の席上で事務局から提示される 3 か月ごとのデータを、平成 22 年から 26 年までのデータを抜粋して構成したもの。クリーンセンターには焼却施設と粗大ごみの処理施設があるが、ここに書いたのは焼却施設のデータのみ。焼却施設は平成 22 年から平成 26 年のデータで、搬入量は 7,286 t から 6,372 t まで約 914 t 減少している。減り具合を確認したところ、平成 22 年から 25 年の 4 年間で 1.8% の減だが、22 年から 26 年までは 12.5 パーセントの減となっている。内訳をみると民間事業系で 32.3% の減。景気や消費税の導入の要因で数字の影響も否定できないのではないかなと思う。ごみ質分析結果では同様に 1 月～3 月のサンプリング結果と 7 月～9 月にサンプリングされた結果のデータを示している。見かけ比重、水分、灰分、可燃物という 4 つの項目数。水分に注目すると、平成 22

年1月の水分の測定値は49.5%だが26年1月の水分は50.7%。ほとんど変わらない。一方、22年8月の水分が43.6%に対して25年8月は48.1%となっている。焼却ごみの組成、どんなものが入っているのかというデータでは、平成22年1月は紙・布類が38.9%であったが今年の1月は32.2%と若干減っている。ただし、合成樹脂系が18.2%から今年は29.1%と増えたことと比較すると、紙・布類の変動はあまり明確なものではない。また、ゴム、革製品、草木竹類は一定の傾向がうかがえない。厨芥類は22年1月の19.3%から今年1月は14.8%。それから不燃物類は7.5%から4.7%と、単位の桁数の違いはあるが減少傾向がうかがえるのはこの2つ。これは1月のデータ比較だが、8月のデータ比較では紙類は減少傾向、厨芥類は逆に増加傾向。つまり季節によって組成の傾向が若干異なるということがうかがえると思う。

【D委員】

高齢者の立場からということで、ごみの施設を見学して、ごみの後始末がどんなに大変かということに関心を持って、そこから高齢者のごみが多いということに関して近所の方や知人と話すようになった。一番驚いたのは、今日、A委員の報告で武蔵野市はごみの収集開始がほかの市に比べて遅いと言われたが、老人にとってはこれでも早すぎて、ごみを出すのがとても大変で、特に冬場は寒くて起きられないから一層大変。申し訳ないけれど、ごめんなさいと言いながら冬場は分別しないでごみをどんどん出すという実情があるように思う。また、だんだん家族が減ってきたのに大家族だった時と同じようにたくさん買ってしまふから材料を無駄にして生ごみで出す。ごみの処理に関して武蔵野市で全部処理できないで、日の出町、自分の目に見えないところで処理されているということのを反省して、なんとかごみを減らさなくちゃいけないと考えようになった。自分の経験から顧みて、ごみ処理がどうなっているか広く知ってもらいたいと思うようになった。小学校だけじゃなくて中学校、高校と何度も繰り返して若い時から関心を持ってもらい、家庭でも両親にもごみに関する教育が行きわたるようになって欲しいなと思う。友達のお子さんと全寮制に行っているお子さんが、家に帰るとごみのことについて色々言われるので、夏休みや冬休みは頭が痛いと言われるそうだが、そのぐらいごみの始末について関心を持っていくように広めていかないといけないんじゃないかと思った。

【E委員】

市民がごみに対する意識というところがやはりまだまだ低いのではないかなあという風に思う。これだけごみを減らしましょうというような、たとえば600gを目指しましょうというような事は、いたるところで掲示されてみなさん見られているところはあると思うが、じゃあ、そのごみを減らすことによるメリットであったり、減らさなかったときのデメリットというのをもっとイメージできるようなことを、市民の皆さんに投げかけていかないと具体的な行動には表れてこないのではないかと思う。だから、指針なりなんなりという

のを市民の皆さんに打ち出していくことができればと思う。

【F委員】

子持ちの主婦という視点での意見を述べたい。私自身この会議に参加してごみは何を減らしていけるのかというところに関心が変わった。生ごみの話や、紙ごみの話を振り返っていくと、結局ごみを減らすというのは生活スタイルを変えていくことなんだろうなということを感じている。先ほどB委員やD委員がおっしゃっていたように、どういうものを使って生活していくかというところを変えていけるかどうかが一番大きくて、来年紙ごみを10%減らせるかどうかというような小さなことではなく、生活スタイルをどういう風にしたら良いのか、ということを考えていかなければいけないだろうと思う。たとえば、保育園ではおむつ外しの時期がどんどん遅くなっていると先生がおっしゃる。昔の子供より自立が遅いとか、昔より寿命が長くなっているので相対的に見ればおむつをしている時間の割合は変わらないとか色々あるが、こういった側面もごみの話につながるんだなあ、とこの会議に参加して気づいた。たとえば保育園でおむつを早くとるために工夫しましょうということ、教育的な側面と市のごみ行政的な側面でみていくということ。公立の保育園に市が入って行って、ごみの側面だけでおむつを強制的に外そうということになると、やりすぎだろうとなるが、ごみを減らそうということ、もうちょっと教育に絡めてやっていくというようなことが大事なのではないか。保育園だったらおむつが対象になるのかもしれないが、小学校だったらB委員がおっしゃっていたようなコミュニケーション媒体をどうするかとか、高齢者ということだと高齢者施設での排泄の問題とか、ライフステージに応じて発生する課題について、ごみが減らせるだけでなくプラスアルファとしての教育的側面とか人間的にうれしいことが起こるかということ、それぞれのライフスタイルの中で仕掛けていけると良いのではないかと思った。単純に何を減らしましょうということよりも、どういった形でどういった教育や仕掛けをやっていったら結果的にごみが減っていく、という提言の仕方をこの会議で見つけていけたら良いのではないかと思う。

【委員長】

6名の委員の方にご発言いただいた。最後にG委員から前回報告の補足的にご発言していただきたいと思う。

【G委員】

みなさんの話を聴いて非常に感銘している。確かにごみは生活の中から出てきているのでライフスタイルを変えていかないと変わらないのはもっとも。資料「古紙の減量資源化への取り組みについて」は私がちょうどごみ減量協議会の時に会長をやった際に紙、生ごみ、容器3つの部会を作り、紙の部会長になったので武蔵野市の紙の減量はどうなっているかということを書いたもの。紙の処理コストは当時行政コストでキロ20円、集団回収は

12 円、販売店回収はゼロだということを考えれば拡大生産者責任というものもあるわけだから紙の行政回収はやらない、という方向で考えたら良いのではないかという前提を設けた。新聞については読売や朝日という大手が大体 70%のシェアを得ているが、重量で言えば9割近いものがある。なぜ大手の重量が多いかというと、当時で1か月に配達される読売・朝日は15キロのうち10キロが新聞で5キロがチラシ。他の新聞についてはチラシも紙面も少ないので半分くらいの重量になる。チラシを配るのは販売店の収入になるのに、それを販売店が自分の方で一切面倒を見ないで行政が全部集めるのはおかしいんじゃないかと。メリットがあるなら自分たちで、ということで読売・朝日の販売店は14店あるうち2店を除いて回収をやっていた。ただ、回収率が55%程度だから、それをもっと徹底してあげれば、年間7000tぐらいが大手だから10%になれば700tになる。1000tで一人1日当たりのごみ量20gに相当するから7掛けでやれば14g減るということ。チャレンジ700とか600から考えて、読売や朝日が10%回収率を上げれば14gぐらい減るということ。そういうことを徹底して推進していく。やってなかった販売店が1店だけになった際、事情を説明すればやってくれた。これらがずっとやってくれれば200~300tという数字が減るはずだが、その後どうなったかわからない。集団回収の問題はそこに書いたが、組織率も武蔵野の場合は30%ぐらい。実際、形としては地域型という各戸建て昔からやっているところ、マンション、社宅、活動費を得るためにPTAがやっている団体等、4種類位に分かれ、最近はマンション型が増えてきている。地域の高齢化のためになかなか集積所まで持つていくのが大変だという問題もあるが、この辺をどうしたら良いかというのを考える。武蔵野には自治会というものが無いが、一つのコミュニケーションの場にもなるので、むしろこれを徹底して広げれば良いんじゃないかと。あとは、福祉の団体とか地域の団体も色々あるので、そういうところが共同して共助の体制を取るのが良いんじゃないかと、そういうことを考えられないかと。そのために事業者、収集業者、販売店、関係者が集まって行政が主導してプロジェクトチームを作ったらどうかと提案した。今のところは全然進んでいないので改めてこういう場で検討していただきたい。もう一つ、一般収集の回数を減らすということも出ているが、資源物に関して1日に色々なものをごっちゃに収集しないで分けてやったらどうかということも提言している。あと問題は発生抑制ということで、各家庭がごみを出さなければ良いのだから、それを徹底するにはどうしたら良いかということだと思う。

【委員長】

この新聞の販売店の回収だが、4100tという数字はどういう形で推定されたのか。

【G委員】

武蔵野は7万世帯あって、大体5万5千部の新聞が取られている。この5万部が他市と比較してどうかということにはわからない、むしろこういうことを調べれば、武蔵野は特に新聞の発行部数、販売部数が1世帯あたりで多いのかどうかかわかるかもしれない。先ほど

言ったように朝日や読売の場合は1か月15キロというのがあり、それを12倍すると年間で180キロが、チラシも含め配られている。5万5千部のうち7割のシェアとすれば4万世帯近くが大手。その他の新聞については実際の回収率はせいぜい15%程度ではなかろうかということで計算した。大手の販売店は14店舗で4万部近くと言われているから、1店舗3000部位扱っておりすごい量になる。そういうところが回収率をアップをしてくれば非常に減量効果がある。だからこういうことを推進していくのが重要だということだ。

【委員長】

それでは7名の委員のご報告について何かご質問、ご意見があれば。

【H委員】

今日は皆さんの経験から非常に貴重なご意見を頂いたと思う。B委員の外国に比べて日本はまだ分別徹底ができていないというお話だとか、D委員のお話は、私がちょうど答えとして知りたかったこと。今回高齢者のごみが多いという結論を出しつつあるところで、原因はわからない。高齢者のせいにして申し訳ないというところがあった。うちの妻などもカレーとかを大量に作ってしまう。夏場なのに3日も4日も食べさせるのかってぐらい作ってしまい、3日目ぐらいに腐ってしまう。そんなに作らなくて良いじゃないかと思うが、大家族だったときに大量に作ったという子供のころの記憶があるものだから多く作ってしまう。そういうところもあるのかと実感した。またE委員の市民のごみの意識が低いということについて、市民にごみ減量をわかりやすく示すことの大切さ、F委員のご意見もそうだが、そこから、「生活スタイルを変える」ということが今回のテーマと思っている。かたやG委員からの数値目標という厳しい形もある。そこのバランスを取っていかねばならないと思っているが、やはり市民の方にどうやって訴えかけていくか。ドラスティックに減るというわけではないが、地道にライフスタイルを変えていってもらわなければならない。レジ袋もただ減らすのではなく、マイバッグを持って百貨店やスーパーに食材をまめに買いに行って、まめにおいしいご飯を作って残さないで食べるというようなライフスタイルに変われば良いと個人的に思う。レジ袋削減でも、今まで市として市民の方に訴えかけていく方法が、ちょっと足りなかった部分があるんじゃないかと、また世帯ごとに訴えかけ方が違うのかと感じた。

【委員長】

事業者さんの方で、たとえばネギの1本売りをするとか、単身世帯が増えている時代だからばら売りをするとか、そういう取り組みも重要だと思うがその辺はいかがか。

【I委員】

おっしゃる通り。私どもは食品スーパーなので、日常のお客様の食生活のご提案ができ

るようなことを一番の目的に商売をしている。バブルの時は大型のパックを、どうせ1パック売るならたくさん食べてもらいたい、そういうような販売意識が90年代は非常に高かった。しかしここ数年来、お客様の好みが変わってきている。育ち盛りのお子様がいらっしゃれば別だが、私どものお店の周りのお客様もどんどん年齢が上がってきていて、60歳以上のお客様が半数近くを占める店も多々ある。そういう中でここ数年来、ちょっとグレードの高いものを少量で良いから食べたいというご要望が非常に多くなった。毎日の食生活で本マグロを食べるお客様がどれだけいるのかわからないが、たとえばハレの日とかそういうときに本マグロ1パック250gのものは一人では絶対に食べられない。そういった時に70gカットのものや2人前の商品とか、委員長がおっしゃったように長ネギも1本から販売するとか、そういったことを当社の全ての売り場、すべての部門で3年前から非常に強く展開するようになってきている。毎日お召し上がりになるリーズナブルな商品もご家族の人数に合わせて1人前120gと設定するのであれば250gとか240gをメインに1人前、3人前というような形で必ず少量パックを置くように売り場の変化をつけるようになってきている。

【J委員】

百貨店という特性上、もともと対面販売スタイルなので、いわゆる生鮮食品に関してはかなり少量販売と言うか、ばら売りではやらせてもらっている。そういった意味ではあまり変化は無い。ただ、たとえば大根を買われたお客様が葉っぱの部分はいらないのでなんとかしてくれということで、カットしてごみを回収してお渡しするということを実はここ5、6年やっている。今一番悩ましいのは、少量パックとは違う話で、いわゆる紙ごみの排出の元になってしまうショッピングバッグと呼ばれるものについて。弊社のショッピングバッグが最近カラフルになった。会社が80周年の記念として限定で作っているものだが、1ショッピングバッグあたり25kgまで耐荷重があるが、万が一ということをわれわれも心配するが、当然お客様の方もそうなので、実際には25kgのものを持って帰る方はいないと思うのだが、二重にしてください、二重にしましょうねということで無駄に紙をお渡ししている。日本百貨店協会で紙ごみを減らしましょうということで2000年対比で48%まで下げようということでやっているが、そういった関係でビニールのショッピングバッグであったり、なるべく一つの袋にまとめて持って帰っていただく、ということはあるが、お客様の方から紙のショッピングバッグを希望されて「百貨店でしょ」と言われるとグウの音も出なくなってしまう。食料品売り場では基本的に百貨店もスーパーさんと同じタイプの白いビニール袋を使っているが、武蔵野市では全くそういう話はないが、渋谷ではお客様から、なんで百貨店なのにこんなビニール袋を使うんだ、ショッピングバッグで渡せと。ところがしつこくビニールで出すものだから、俺には絶対紙で出せということもあった。お客様のプライドというところからごみが出てしまっている部分もあるのかなど。正直、百貨店で働いていてこんなことを言うのもなんだが、紙でもビニールでもどちらでも

便利な方で良いではないかと思う。

【委員長】

バッグをもらっても、それを雑紙の排出に用いるとかリユースをするといういろんな対応もできるわけなので、消費者の側もそれなりにリユースに取り組むとかそういう心構えで消費をすれば良いのではという気はするが。副委員長はいかがか。

【副委員長】

ライフスタイルを変えなきゃいけないという話は印象に残った。まあ割と大きな話になると思うので、具体的に何をするのかという、こういう風にしてみましようという例をわかりやすく示すことによって具体的な取り組みにつながるのではないかと思った。どうして良いかわからないというか、とにかく減らさなきゃいけないと言われて我慢して減らすというのはなかなか難しいと思うので、具体例を示していただければ良いなと思った。もう一つ、ごみの収集のA委員の話がすごく印象に残ったのだが、集め出す時間が遅くなると、それだけたくさんトラックや人を使って短時間で回収しないといけないということだと思うが、後ろの時間は1時間ぐらい遅く始めたらそれを1時間遅くまで作業するというわけにはいかないのだろうか。

【A委員】

特に冬場だが、日照時間が、夕方の遅い時間になって暗くなると出ていてもわかりづらくなる。したがって集めるのが困難になるという実情がある。だから、8時だと広く認知されているのは絶対に明るくなっている。どんな天気であっても。搬入先の清掃工場の搬入時間が原則的に16時までというのが操業上決まっているので、そういう部分で後ろにスライドする作業形態というのはなかなかとりづらいというのが実情。

【委員長】

9時にされているというのはいかにも遅いという感じがするが、普通は8時あるいは8時30分。9時にした理由というのは。

【H委員】

文書的にはないが、通学時間を避けて収集すること、30年前に色々な経緯の中で周辺住民のご理解をいただいてクリーンセンターを建てさせていただいた際に、9時収集というのが武蔵野のスタンダードになっているので、そこはなかなか変えられないところである。さっきのように高齢者からすると遅い方が良いという話もある。収集する方からすると大変だが。

【G委員】

職員の出勤が9時だった。かつては職員が収集をやっていたのでその名残が残っているということはないか。

【委員長】

その名残というのはあまりないと思う。事務系と現業系で出勤時間は当然違う。現業は始業時間違うと思う。

【H委員】

今、委託で収集しているが、直営で収集をやっていた時も、ラジオ体操とかをしてちゃんと時間を守って出るようにしていた。あと一つだけ、C委員に資料をお出しいただいたが、焼却量の民間事業系が減ったのは経済動向もあるが、事業系の持ち込みごみ処理手数料の値上げがちょうど25年の4月からなので、相当量減ったということもある。また、ごみ質の分析等について、一般的には冬のごみは乾いたごみで夏のごみは湿ったごみというところがある。

【事務局】

今、H委員が言ったように、夏場のごみという大昔でいうとスイカのごみが多くなって、重量は重くなるなんて話を先輩から聞いた。逆に冬場になるとごみ自体が乾いてくるというのがある。あともう一つが、季節によっては今の梅雨時だとかそういったところだと、以前はステーションで集めていたものだから、雨で濡れてしまったごみを集めて来たりとか、そういうのが1週間続くとやはりかなりの水が溜まってしまい、ピットの中に水が溜まっているのが見られるような状況だったこともあるので、そういった傾向で水分だとかは変動が出てくる。合成樹脂系については近年プラスチックのごみが増えている。今までだと紙だったのがプラスチックに変化しているというところで、今後合成樹脂系が増えていくのは社会情勢の変化で今後も起きていくようなことだと思っているところだ。

【G委員】

これは水分が入っていない乾量か、水分を除いたネットの量で出したものか。たとえば生ごみ、厨芥類が14.8%というのは随分少ないような感じがする。やっぱり30%ぐらいあるんじゃないか。

【委員長】

バンカーの中だと、事業系がたくさん入ってくるので、こんな感じになることが多い。集めてきたパッカー車から降ろして組成分析すると、厨芥は4割近くなるがバンカーからひろうとこうなる。

【事務局】

委員長からご説明があった通りだが、この分析の結果については湿ベースで取っており、委員長のご説明のようにごみのピットから採取したものをこういった分析にかけている。

【委員長】

進行上、次の議題もあるので、次の議題に入らせていただく。③現行計画の重点施策と進捗状況ということで資料の2、3でご説明をお願いします。

③現行計画の重点施策と進捗状況について

≪事務局より、現行計画の重点施策と進捗状況について説明を行った。≫

【委員長】

ただいまのご説明に基づきましてご質問とかご意見があればお出しいただきたい。

【K委員】

コメントだが、武蔵野市のごみの発生状況の特徴は高齢者が多いとか人口とか色々書いてある。以前いただいた資料4を眺めながら見ていたが、確かにそんな感じですねという感じ。ちょっと思ったのは、こういう数字で出ると統計的に処理したらこのぐらいというのは出るんじゃないだろうか、たとえばごみ発生量と納税者一人あたりの所得は正の相関関係が考えられそうなので、相関係数などを用いればその関係性はこういう処理をすると、およそこうですと言えるような気がするのだが。

【委員長】

そういう風なデータの整理というのが事務局でなされているかどうか。

【K委員】

パソコンに入力されているはずだから、比較的簡単に統計処理できるんじゃないかと思うのだが。

【H委員】

K委員がおっしゃった、何か相関関係が見いだせないかと模索しているところだが、なかなかうまくそこはつきりと出せない。前回もご説明したように、いくつかの要素が複合的に絡んでなっているような感じがしている。何か根拠みたいなものが出れば良いと思っているが、場合によっては副委員長に統計的にうまい方法がないかご相談するとか、ちょっと検討してみたいと思う。

【G委員】

ごみの排出量で三多摩の平均と 60g ぐらい差があるというのは、武蔵野は特色があるんだからしょうがないんだ、ということに力を入れるのは、私はどちらかといえば反対。仮にそうだとしても、これからライフスタイルを変えていかないと、資源や環境の面でもたないということが長期に見ればはっきりしている。その中で10年計画を立てるときに自分たちの今までの生活を見直して多摩の平均ぐらいを目指そう、というのがこの計画の基本にないだめだと思う。ある程度数値目標についてもこの間600gと事務局が出されたのはそれで良くて、それを目指すために、じゃあ10年間とりあえずは最初の5年で半分ぐらい減らすんだったら、どのくらい減らすのかといたら6gとか7gとかを1年に減らせば良い。だから、むしろそういう数字目標も出しながら、何をやってライフスタイルを変えたら良いのかという時に、今までやったことを見直して、まずごみを出さないように2Rを徹底して突き詰めていく。それを行政としては仕組みを考えながら広報で市民に対して知らせて、計画的に広報をやっていく。市民からいろんな意見や苦情が出てくるかもしれないが、もっともな苦情なら良いが、苦情に引っ張られて全体を見失うというのがあるんじゃないかと思う。逆に言えば市の職員も大変だと思う。不燃ごみを月4回から月に2回にした時は随分苦情が来たと思う。市民がごみを集めるのはサービスじゃないか、なんでサービスをやめるんだという話は一部からは出ると思う。7割の人は良いと言っているならそれは施策として、あとの3割の人に対応することは別に考えていく、それをきちんと計画で立てる。苦情に対してこういう考えでやっているんだと、そういうことがちゃんと言えるようなルールを作れば、職員も苦情を言われても毅然として説明できる。市民も入って作った計画だと。ちゃんと実行計画を作っておけば市の職員もこういうルールでやっているんだと、仕事もそのルールでやれば良いんだし、外部から何か言ってきたらこういう事だからできませんと言えられると思う。ライフスタイルを変えていくというのはそういう問題が出てくる可能性もあると思う。それを念頭に入れて2Rで徹底していくという考え方が基本に必要なと思う。これが武蔵野の特色だから良いんだとなるのは違うんじゃないかと思う。

【委員長】

所得とごみ量の関係は、所得が増えらるとごみの排出量が増える傾向があることは確かだが、環境クズネツ曲線というものが経済学の方であって、一人当たりのGDPが上がっていくと環境汚染などがそれに伴って増大するけれども、ある程度までいくと環境対策がだんだんと進んできて、汚染量が頭打ちになって今度は下がっていくというような傾向については以前から分析されている。ごみについても一人あたりのGDPが増えてくると、増えるが、やはり頭打ちになる。日本の現状では、2000年以降ここ13年間ぐらい名目のGDPが落ちているが、デフレなので実質のGDPは増えている。ところが、一人あたりのごみ排出

量はずっと落ちてきている。所得が増えればごみが増えるというようなことではなく、ライフスタイルの見直しとか3R、特に2Rの取り組みを武蔵野市で一生懸命取り組むというようなことで、このクズネツ曲線みたいに一人当たりの排出量を下げていく、というモデルを描けると良いなと思う。

【F委員】

確認だが、原単位は事業所系のごみと市民のごみを足したものを市民の数で割って出しているのか？

【委員長】

環境省のごみ排出量というのはごみ総量、資料1の表1にプラス集団資源回収っていうような形。家庭系のごみ、資源、それから事業系のごみ、集団回収で集められるもの。

【F委員】

もしそうだとすると、武蔵野市は所得の高い市民と、ある程度他の市よりも企業力が強いということで、お互い強い活動をしているので相対的に多くなるのかなと思っている。市内で出されるごみの事業所系が何%で、と分けて考えないと、所得が多いからといってごみが増えるわけではないということもある。納税者一人当たりが低くてもごみの量が武蔵野市よりも多いところは実際にあるわけなので、無理やり市民の所得とごみに結び付けて何か方向をだすのは難しいのかなと思う。

【委員長】

一人当たり所得で見て、武蔵野より高いところはなかったと思う。

【F委員】

所得が低くても武蔵野市が出しているごみの量よりも多いところがあって、高いから多いわけではなくて、たとえばある市では、納税者一人あたりの所得は武蔵野市の3分の2ぐらいだが、原単位でいうと武蔵野市より6gぐらい多い。そういう現象がある。市民の出しているごみと事業所、まちの力というか来街者数というか昼間人口と夜間人口というものもあるだろうから、改善の方向としては、武蔵野で出ているごみ全体について市民が出している部分と事業所が出している部分を、ある程度分けて対策を考えないと現実的ではない気がする。

【G委員】

事業者と言っても、統計に算入されるのは1日10kg以下で出している小規模事業者、市内に3600ぐらいあるその部分が35gぐらいを占めているのではないかと、ということが今ま

ではっきりわからなかったのが今回の調査で分かった。35 g 全部が他市との差になるのかと言えば、三鷹だってそういう事業者が入っている数字だから、そういう要因の一部であると思うが。一方、市ではなく事業者が集めているものは、持ち込みごみで書いてあるように、もともとごみが多く出る事業者で、この統計では一応除かれている。家庭系のごみ量に小規模事業者が 35 g ぐらいあるんじゃないかというのが今回はっきりした。

【L委員】

吉祥寺の事業者の場合は、ほとんどがビル単位で別に収集業者を雇って年間何百万円だかお金を払ってやっている。多分東急さんもそうだろうし、他の事業者もそうだろうと思うが、吉祥寺の場合は小規模事業者系のごみの数はわずかだろうと思う。ほとんどビル化されているので、そこのビルで収集業者を雇って、その業者が市外へ持って行って廃棄しているということだと思う。

【委員長】

その場合のごみの排出が、持ち込みごみ量に反映されていると思われるか。

【L委員】

ごみの排出量としてどうなのか、そのところは良くわからない。いわゆる持ち込みの一部として、事業者が処分する際に武蔵野へ搬入しているケースもあると思う。

【事務局】

今、吉祥寺の多くの事業所から出るごみで、市外へ持って行かれているのは主に生ごみと紙類で、それらの登録再生利用事業者へごみを持って行っている。資料 1 にある持ち込みごみは、そうやって資源化できないものが燃やすごみとしてクリーンセンターへ入ってくるということ。市民一人当たりで割り返すと 187.7 g になる。平成 25 年度から、燃やすごみをクリーンセンターへ持ち込むと、処理手数料が平成 24 年度の 1 kg 20 円から 40 円に倍増したことで、なるべく資源化に回すように事業者が努力され、24 年度の前単位は 187g ぐらいだが、25 年度の結果では多分 130g ぐらいまでに減る。一般家庭から出る前単位の 676.7 g とは全く分けてデータを取っているのだから、直接市民のごみとしては扱っていない。

【G委員】

十年前に、武蔵野の一人あたりのごみ量は確か 1100g とかいう数字でワースト 1 だと盛んに言われたので、事業系も入っていてワースト 1 と言われるのは困る、分けてくれ、と市の方をお願いして、こういう風にわかれてきて、今回はさらに小さな事業所まで調べてくれて分かるようになってきた。864 g という数字は今もワースト 1 なのか。

【事務局】

24年度は1位。25年度のデータが全市から出ていないのでまだわからないが、25年度かなり持ち込みの事業系ごみが減ったので、当市は総ごみ量で810いくつになり、おそらく50gぐらい減るが、2位ぐらいで一つしか下がらないだろうという状況。

【副委員長】

目標の立て方ということだが、例えば700の次は600だというように市民に分かりやすい目標を立てるというのも一つの立て方だと思う。一方で武蔵野市の特性を勘案して、ある程度計算して合理的な数を出す、それプラス、ライフスタイルの変化分とか努力する部分も入れて、計算よりも低い値に挑戦するような立て方もあるんじゃないかと思う。

【委員長】

ある程度大胆な目標を設定して、それに向かって色々な取り組みを割り当てていくというやり方と、もう着実にこれは見込めるなという、この取り組みをやるとこれがこのぐらい減るぞという形のを積み上げていくのと二通りあると思う。ただ、当市の場合は事業系についてはもう大幅な値上げをやっており、すでに家庭ごみの有料化もやっているという状況なので、経済的な手法をこの上用いるというのは難しい話だろうと思う。

【D委員】

質問だが、この現行施策の進捗状況というので家庭ごみの①有料化後の対応で、資源物の有料化というのは、古紙とかそういうものを有料化するということか。

【委員長】

びん缶ペットの有料化というのは多摩地域でやっているところはないと思うが、プラスチック容器包装の有料化をやっているところは近隣にもある。

【D委員】

古紙回収を有料化にしたら、分別しないで出しちゃうことになるんじゃないかと思ったのでお聞きした。

【委員長】

古紙を有料化しているところは、日本全国では山間部だとか非常に小さな自治体でやっているところはあるが、都市部ではほとんどそういう事例はない。ただ、政令指定市で、びん缶ペットなどを有料化しているところはあるが、手数料は処分ごみの半分程度に設定している。これから資源物を有料にするというのは非常に至難の技だろうと思う。やれるとすれば容器包装プラスチックぐらいだろうと思う。隣の西東京市なんかでも一応有料に

はなっているが、指定袋の作成費程度の非常に低い手数料水準。多摩市もそう。先ほどG委員の資料に出ていたが、民間でもうちょっと資源物の回収に協力してもらい、市民の方に販売店ルートで古紙を排出してもらうことは新聞販売店にとっても、売却されているだろうからサイドビジネスとしてプラスになるし、行政にとっても経費負担の削減になる。排出者にとってもトイレットペーパーやなにかくれるので、みんなにとってありがたい取組になるんだろうと思う。

【G委員】

ただ、紙の値段は変動する。今は良いが、落ちてきたときに負担がかかる。新しく朝日新聞の子会社が一つの事業所として販売店をやるという時に、販売店で回収をお願いに行った際、やりましょうと、ただ、ティッシュペーパーやトイレットペーパーを配るとかじゃなしに、あまりが出れば市に寄付しますと、市の緑化基金に寄付するというのでやり始めてもらった店がある。ただ、行政サイドは事業者に対してそういう働きかけをやるということに対して、営業の邪魔をするとか、遠慮している感じを受けていたのだが、今回、事業系ごみ処理手数料をkgあたり20円から40円にしたというのを見るとずいぶん変わってきたなという印象を受ける。市民に対しても苦情が返ってきたりするので遠慮するという感じを随分受けるが、市民の税金で処理しているわけだから、ごみなんかできるだけ金をかけないで税金は有効に使おうということになれば動機づけになるかもしれない。有料化した後、有料化したのになぜ収集回数を減らすんだという話が出たと聞いた。今まで無料で収集したのを有料にしたのに、なぜ、それ以上さらに市民に面倒をかけるようなことをやるんだという人がいるという話。

【B委員】

私が聞いたのは、有料化してごみを出しているのだから、市の職員が分別したら良いじゃないかという話。私たちはお金を出しているんだからってという考えの人。資源物は毎週じゃなくても、可燃ごみでも減らしても良いじゃないかと私は思うのだが、有料で出してるんだから2回でも3回でも取りに来い、と、そう考えている人もある。市の方も、一回、どれだけ税金がかかっているのかということもPRというか、知らせることも大事だと思う。コミュニティセンターで健康クラブを行った時に、参加者のみなさんに水分補給にはペットボトルを買わずに水筒で持ってきてください、ペットボトルの処理には何億とお金がかかるんですよと言ったら、ほとんどの方が知らない。どのぐらいのごみを一回処理するといくらかかるとか、その辺の事について、市の方も市報やなんかで市民に知らせるのも必要なんじゃないかなと思う。

【委員長】

そのとおり。そういうこととあと、ごみの収集の仕組みをちょっと変えていくというこ

とも、考慮に値することだと思う。やはり、ごみは出しやすいとたくさん出してしまう。

【G委員】

たとえば集団回収の紙の回収も月に1回か2回。市の紙の収集は毎週、缶やびんも毎週やっている。缶やびんは量的に非常に少ないはずなので、収集回数を減らすことというのは考えて良いと思う。

【委員長】

周りの自治体を見ても毎週収集はない。隔週というのが平均的ではないだろうか。

【G委員】

そうだと思う。ただ、そのためには自分のところである程度資源物を溜める必要が出てくる。逆にそういうことが嫌なら減らせれば良い。ごみをいつでも出せるというのではインセンティブがなくなる。でも、最近は市の方も、お金のこととか多摩の平均と比べてどうだとかをグラフで広報に載せるとかいうことをやってくれるようにはなっている。あとは具体的にもう少し市民に対してこういう事をやっでごみを減らしていけば良いんじゃないかってことを出していけば良い。

【委員長】

具体的な話というのは、もう少しあとの方で議論をするということで、今日は一応ここまでとさせていただきます、議題（2）まで終わりということにさせていただきます。

（3）その他

《次回は9月22日（月）、次々回は10月24日（金）で決定。》

《11月と12月については、事務局よりメールを送るのでそれを取りまとめて調整する。》

3 閉会

【委員長】

これにて閉会とする。

以上